

小学図書館ニュース

ホームページ <http://www.schoolpress.co.jp/>

平成21年
7月18日発行
第852号付録



★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が変わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きご送付申し上げます。©少年写真新聞社 2009

多くの子どもたちに星空を届けたい

移動プラネタリウムでご活躍の木村直人さんにお話をうかがいました

木村直人さんは、一九八〇年、二〇〇〇年までの二十年間、渋谷区の財団法人天文博物館五島プラネタリウムで解説員として勤務。その後、郡山ふれあい科学館、喜節区郷土と天文の博物館勤務を経て、現在は本紙でご紹介した移動プラネタリウムの事業を展開しています。

どんなことがきっかけで星の世界に？

高校生の時にジャコビニ流星群の流れ星がたくさん飛ぶという予報が出て、街明かりも消して、みんなで流れ星を楽しもうという社会現象にまでなりました。

地学の授業では「流れ星を見ること」という宿題までが出たんです。星を見るのは、遊び終えた夕方の帰り道に「あっ、一番星だ」という楽しみ方はあったけど、流れ星を見ようなんてことは考えたこともなくて、すごく新鮮で興味を持ちました。その晩、懸命に流れ星を見たいんですが、残念ながら曇って見えませんがまた悔しくて…。

翌年の夏、ベルセウス座流星群を横浜の自宅の庭で一晩中観察し、たくさん流れ星を見て感動しました。その後、コホーテク彗星というほう

き星も見たいです。なるほど尾を引く姿にたまげ、こんなに不思議なことが本当にあるんだと感じました。この感動を伝えたいという思いが現在に至っています。

移動プラネタリウムの魅力とは？

一般的に施設のプラネタリウムの番組は、みなさんが「聞く」ものでも、このプラネタリウムはお互いに「会話」するんです。ああだとかこうだとか、ここに魅力があります。子どもって興味があると、もつと近くで聞こうとする。ですから、初めは離れて座っていたのに、だんだん近寄ってくるので話しがいもあって楽しいです。

学校ではプラネタリウムの学習が必要なんです。時間が関係でなかなか外に出にくい現実があると感じています。そんな中、プラネタリウムが学校に来てくれれば、歓迎されるのではと思っています。

星を見ることの楽しさとは？

学校で星の勉強を始めても、何か難しいですよ。それは星を楽しんで見た経験がないからです。本当は星ってどこでも見えるもの。プラネタリウムで「こんな星が見え

るんだよ」という話を聞き、家に帰って本物の星空でそれが見えたらうれしいですよ。よく見れば、もつと暗い星や色も見えてくるし。

そんな素朴な発見が楽しく、星はきれいだなって感じますよ。この経験が学習意欲につながると思います。

日食の楽しみ方を聞かせてください

七月二十二日は、日食観察の絶好のチャンス。手軽で安全な方法は、手鏡で太陽光を少し離れた日陰の壁などに反射させ、太陽の像を見ることです。鏡と壁までの距離の二百分の一の鏡を使うことがコツです。もし鏡が大きければ、紙などにそのサイズの穴を開け、鏡に張ってしまえばいいので簡単です。穴の形は四角でも三角でも、壁には丸く映ります。これは太陽が丸いからで、ピンホールカメラの原理です。

太陽が欠けると、その形の太陽像になります。鏡を固定すると、太陽の動きに応じて太陽像も移動します。木漏れ日も同じ原理で、日食時には三日月型の光が落ちて可愛いですよ。

ほかにも、気温や花、鳥などの変化を日食の時間に合わせて観察するとうなるでしょうか？ 宇宙の不思議が体験できます。

※日食を観察する際には十分な注意が必要です。以下のサイトの注意書きを参考に、安全に観察してください。http://www.astronomy2009.jp/ja/webproject/soed/nghtml